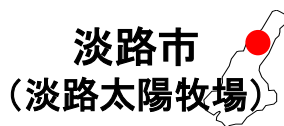


【放牧を生かした新規参入】（兵庫県 太陽通関株式会社・淡路太陽牧場）

- 淡路市北淡路地区は、農地開発事業により農地整備され、当初果樹を中心とした営農が計画されていたが、農業情勢変化から飼料作物の作付けが中心となるほか、傾斜地の農地利用低下が著しく耕作放棄の解消も課題。
- 神戸市の太陽通関株式会社は和牛繁殖農家で研修の後、令和2年に放牧事業を活用して和牛繁殖経営に参入。
- 令和2年度は雑木が繁茂する土地を伐採整備、令和3年度は淡路島の温暖な気候を生かして7haの傾斜地にバヒアグラスを播種し草地化を図り、但馬牛の繁殖雌牛22頭を放牧。今後、放牧頭数の増加を図るとともに、地域の放牧推進に努める。



神戸市



淡路市

(淡路太陽牧場)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
<ul style="list-style-type: none"> ・淡路市にて子牛の育成法を、大分県にて母牛の管理放牧を繁殖農家による研修で習得 ・複数の農地所有者より農地の利用権を移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・放牧予定地(7ha)の伐採、簡易牛舎、スタンションの整備 ・電柵、飲水施設、アブトラップ設置 ・繁殖雌牛4頭導入(馴致後放牧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・牧草種子の播種 ・繁殖雌牛18頭導入(馴致後放牧)

取組実績	R2年度	R3年度
放牧面積	7ha	7ha
放牧頭数	4頭	22頭
放牧期間	53日	90日



伐採・整備前(R元)



放牧後 (R3)